

編集後記

年二号体制最後の号です。サケが生まれた川に戻ってくるように、来年度再び、少し太って(?)帰ってきます。実際のサケは人工放流由来がほとんどです。そのため、津波で孵化場が大きな被害を受けて以来、三陸に戻ってくるサケの個体数は減少し、いまだに回復していません。そんな中、中津川で生まれた「野生」のサケの回帰が確かめられたのは、ささやかな喜びです。本号掲載論文をご覧ください。

(平塚)